

総会から

2013年4月14日(日)午後1時から、東京ボランティア市民活動センター会議室で、出席18団体19名、委任状40団体(正会員総数78団体の過半数になり総会は成立)で開催されました。

TNVNは1993年12月、ボランティア日本語教室活動を行っている団体が情報交換や活動の活性化を図る目的で結成し、今年12月には20周年を迎えます。

日本語ボランティア活動に関わる会員団体のご協力と、活動にご理解のある方々のご支援に支えられ、この積み重ねで第

20回の総会を開くことが出来ました。

議長は、仁村議子様(IWC国際市民の会)にお願いしました。

①2012年度活動報告 ②2012年決算報告及び会計監査報告 ③2013年度の新役員選出(立候補・推薦がなく2012年度の役員が再選) ④2013年度活動計画(8頁参照) ⑤2013年度予算案の提出等を各議案担当役員が報告、ともに全員異議なしで承認され、総会は1時間10分で終了しました。

意見交換会から

14:30~16:40

2011年の総会・情報交換会(2011.4.23)では大地震後の教室活動の様子を話し合いましたが、今回も最近の活動状況を情報交換しました。

参加団体は、TNVNの設立以前(1979年ごろ)から既に活動していた団体、15年以上の活動歴のある団体、10年以下で悩みながらも活発に活動している団体と多彩でした。

◆学習者について

震災後の学習者の状況

- ・2年前の震災以降学習者が減った。
- ・保育室があるが、利用者が減り、震災前は8名~10名だったが、震災直後はゼロ、今は二人。
- ・子ども教室を開き、子ども連れの母親を優先しているが、最近子ども連れは減った。
- ・ミャンマー、ネパールの学習者が増えた。

子どもへの支援状況

- ・外国にルーツを持つ子どもと保護者の学習支援をしている。子どもが抱える精神的悩みは深刻で、大きくなるにつれて、悩みが増える(学校の先生の理解がない)。
- ・難民を支援している団体では、日本で

生まれた子どもが増えている。この子どもたちは無国籍だが、在留資格を持ち、公立校に入れる。

- ・品川区教育委員会より委託を受けて区内小中学生に日本語支援をしている。
- ・子どもは保護者同伴で参加している。
- ・これから児童生徒の支援もやっていきたい。

◆ボランティアの確保について

- ・土曜日なのでボランティアの補充が困難だったが、区でボランティア養成してもらい補充できた。
- ・継続して活動できるボランティアがいなくなったため、夜の教室を閉鎖した。

◆会場について

- ・建物が老朽化したため、小学校の空き教室が活動支援室として利用できるようになった。
- ・区の施設の支援でできた新しい教室は、会場が確保され、学習者、支援者とも多く、盛況。
- ・区・市の施設を優先的に、費用が半額、または無料で使用している教室が数団体ある。

第20回総会と意見交換会が開かれました

- ・市内にある大学寮のプラザを無料で使用できる。
- ・ボランティアセンターの認可団体になると施設利用料が無料になる。

◆教室運営について

- ・文化庁「生活者としての外国人の日本語」を視野に入れた講習会を計画している。
- ・5年位前から日本語支援だけでなく、パソコン・英語、学校の勉強など支援項目を増やした。

◆その他

- ・絵本「すごいぞネズミ君」を母語保持に役立つよう、英、中、タイ、タガログなど9言語に翻訳した。目黒区HP「子どもネット」で見たい。
- ・東京都外国人支援団体合同会議第10ブロックは、メーリングリストで情報を共有し、2ヶ月に1回会合を持つ。なお、行政・国際交流協会が中心になり、市民団体は少なくなっている。

(編集担当)

ボランティア礼賛



寄稿

東京都国際交流委員会 事務局長 山川 泰子

東京都国際交流委員会は、国際交流・国際協力等に関する情報の収集・提供や普及啓発、そして都民の参加と連携による国際的な相互理解を促進することを目的としています。具体的には、メールや電話での問い合わせに答えたり、HPにより情報を発信したり、区市の国際交流協会との連携・協力、外国人のためのリレー専門家相談会の開催事務、国際化市民フォーラムの実施などです。

いわゆる国際交流にかかるいろいろな仕事をしている、ということなのですが、在住外国人の皆様は、在住外国人の皆様に利便性を高める仕事をしている反面、在住外国人の皆様の顔が見えない、といった一面も抱えています。このところは、他府県等の地域国際化協会や区市の国際交流協会とは大きく異なるのではないのでしょうか。外国人の方々と直に接する事業がほとんどない、というのが実情です。

こう申し上げますと、在住外国人のために事業を行っているのに実態を把握していないのか、とおしかりを受けそうですが、東京都といっても広く地域によって様相が異なり、時の経過とともに変化も起きています。全体的な把握は難しいと言わざるを得ません。ここ2年位の登録外国人人口の動きを見ますと、東日本大震災以来、約2万8千人減少しています。しかし、国別で見ると増加に転じているのがネパールです。2年間で、新宿区、大田区などを中心に約1,500人増えています。このように、在住人口の変化はとらえられますが、生活する上でどのような問題を抱えているのか、特に新たな課題をつかむことは難しい状況です。

したがって重要となるのがアンテナやセンサー機能となってきます。現場をもっていないと現場感覚

がないと言われることがありますが、現場感覚がないと問題意識が持てず問題解決にも取り組めない、ということにもつながります。国際交流の現場では、季節の行事、交流会、日本語教室など様々な事業が行われていますが、在住外国人の方々が参加されている現場での情報や感覚が重要になると思います。

東京都内では多数のボランティア日本語教室が開かれています。それぞれの教室は規模が小さいかもしれませんが在住外国人の方々と直に接する現場です。また、多くの教室の情報をまとめると大きな流れや問題がつかめるかもしれません。日本語ボランティアとして活躍されている皆様も、そのような最先端で情報をつかめる立場にいられることを活かし、アンテナやセンサー機能を果たしていただけないのでしょうか。

また、国際交流の現場では、ボランティアの活動無くしては成り立ちません。ボランティアをするためには、それなりのバックグラウンドも必要ですが、崇高な精神がなくてはできないと思います。そういう意味で、ボランティアをされている方々には頭が下がる思いです。今後とも、皆様のご活躍を期待しています。

この4月にアウンサン・スーチーさんが来日しました。その時に話された印象的な言葉があります。「したいことをするのではなく、やるべきことをやるのが自分の人生だ」という内容でした。スーチーさんの生きざまを表す言葉ですが、人生においてやるべきことは何なのか、人生観に訴える感慨深いことばではないのでしょうか。

東京都国際交流委員会
ホームページのご案内

*委員会や国際交流・協力・支援団体などの情報提供、防災関連情報、イベントカレンダー、生活ガイドや毎月提供するニュースレター「れすばす」、リレー専門家相談会の日程などを掲載しています。

*防災啓発動画をアニメで提供しています。ぜひご覧ください。

HPアドレス:<http://www.tokyo-icc.jp>



「て形の歌」の誕生

ベートーベンさんありがとう

日本語教師 金子 広幸

日本語教師になりたてのころ、「て形」という言葉が私にはとても新鮮でした。

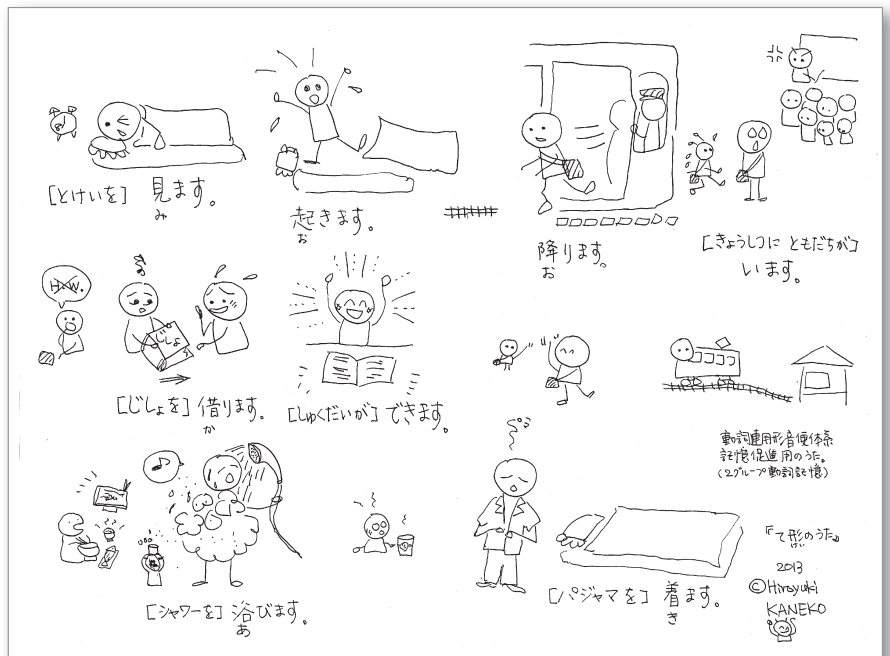
「食べて飲んで」「歌って踊って」…。母語使用者の私たちが1日に何千回と使っているのに、国文法では「動詞連用形と接続の助動詞が連結されたもの」で1つのものだと扱われていません。そして、「書きます」の連用形「書き」に「て」がついても、「書きて」にはならず、「音便が起こることが多い」となるわけですが、「母語話者は間違えないだろう」という考えなのでしょうが、国文法の時間にはあまり触れられません。

この「て形」、初級の学習者には厄介なものです。「切る」の「て形」は「きて」なのか「きって」なのか「きいて」なのか、いつまでたっても迷っている人がいます。タイピングでも、ちゃんと「kitte」と打たないと「切って」は出て来ません。

この「て形」のシステムを初級学習者に定着させるために、要点をまとめて、♪きらきら星♪、♪ロンドン橋落ちた♪や、♪雪山賛歌♪のメロディーに載せたものがありました。

「イチリって、ニミビんで、シして、キいて、ギいで」と歌いますが、ここは1グループの「て形」の要点をまとめた部分です。「て形」が「～って」となるのは、「あいます」「まちます」「とります」なので、「イチリって」と覚えます。私も台北にいた30年くらい前から、この歌を使っていました。でも、学習者の中には、つまづく人がいて、ある日、こんな質問が出ました。

『書きます』は「書いて」ですね?でも『起きます』は「おきて」ですね?どうしてですか?という質問です。



みなさん、わかりますか?…これらの動詞は、2グループ動詞のうち、国文法で言う「上一段動詞」だからですね。この種の質問には、さも当然だという表情を作り、「2グループだから」と冷たく答えていましたが、学生の苦々しい表情を見るうちに、何かいい方法はないものかと考えるようになりました。

それは2003年の冬の寒い晩でした。会議で遅くなった私は、渋谷から新宿まで星を眺めながら、歩くことにしました。聞く音楽は、Opera Babesの”Ode II Joy” from Symphony No.9、ご存じ、年末を飾るあの歌、交響曲第九番「歓びの歌」でした。

♪晴れたる青空 ただよう雲よ～
…よし、ここに、「イチリって、ニミビんで、シして、キいて、ギいで」をあてはめよう。
♪小鳥は歌えり 林に森に～
…「例外 して 来て、行きます⇒行つて」…順調、順調…
…上一段動詞か…どうしよう…

…そうだ!『みんなの日本語』の動詞のうち、覚えておいた方がいいものを8つあげてみよう。

♪心はほがらか よろこびみちて
…「見ます、起きます、降ります、います」
… お♡!

♪見交わす われらの明るき笑顔
…「借ります、できます、浴びます、着ます」
…おおっ!!!できたぜ!

朝、目覚めて、目覚まし時計を「見て」驚いて「起きて」学校へ急ぐカネコサン、駅で電車を「降りて」…と、楽しいストーリーもできました。絵をご覧ください。

ベートーベンさま、遠い東の国の日本語教師にお力添えをありがとうございます。(感涙)

私の「新生「て形」の歌」を歌うようになった学生さん、効果のほどはいかがだったでしょうか。私はというと、年末にどこかでこのメロディーを聞くと、思わず「イチリって…」と歌い出してしまうようになってしまいました。

東京都医療機関案内サービス

ひまわり

子供の急な発熱。これから診てくれるところは？

海外で病気になったらどうしようと思ったことはありませんか。常備薬を持ち、万全を期しても、それでも何事もないようにと祈ります。皆さんのボランティア日本語教室にいらした方も、風邪をひいたりお腹をこわしたりと、小さな病気になったことがあるでしょう。そんな時、どんな状態か、どんな風に痛いのかと聞いても、なかなか分かりにくいものです。今は、英語での対応ができる病院も多くなりましたが、まだ対応しきれない問題がたくさんあります。そんな時、どうしたらよいでしょうか。

*ひまわり

今回、私たちは、東京都医療機関案内サービス“ひまわり”を訪問しました。

“ひまわり”は、平成5年に始まり、都民のために24時間、医療機関などを電話、FAXとインターネットで紹介しています。なお、日本語の“ひまわり”は、コンピュータによる自動応答又は案内員による電話案内等で対応しています。

*外国人のためには

平成5年から5ヶ国語で医療情報サービスを始めており、インターネットでの英語による医療機関案内サービスもしています。

電話相談窓口では、毎日、午前9時から午後8時まで、英語、中国語、ハンガール、タイ語、スペイン語の5ヶ国語による問い合わせを受け付けています。各言語ごとの相談員が、1日二交代制で対応しています。

電話相談は平均して一日14件ほど

あります。まず、どの言葉ができるかを聞き取り、又どのような症状なのかを聞きながら、内容を把握して、いったん電話を切り、病院と相談します。適切な対応をするため複数の病院に確認を取ってから、相談者からの再コールに回答しています。きめ細やかな対応をするため1件につき、3～4回電話のやり取りをして、医療機関を2か所以上紹介しています。

*相談者の

言語別割合は、英語41%、日本語29%、中国語18%、その他がハンガール、スペイン語、タイ語となっています。英語・日本語による相談の中にはさまざまな国の人が問い合わせせてきています。

相談員は、日本人と外国人で、医療に関心の高い方々ですが、さらに医療に関する研修を受けています。そして、日本の医療制度を熟知した事務局員が脇を固め、相談員の配置や、研修などコーディネートしています。国による

医療制度や治療方法の違いや、健康保険の有無からおきる費用の問題なども心配されるので、よく調べて答え、理解してもらうようにしているとのことでした。

また、「直接病院へ行ったけれど、言葉が通じなくて対応してもらえなかったが、病院が“ひまわり”を教えてくれた」と電話してくることもあるそうです。相談者の立場で病院を案内しているので、遠慮や気兼ねなく相談してくださいとのことでした。

相談者の気持ちをくみ取りながら、病院の案内をなさるのは、とても、大変な事と思いました。静かにお話をされる相談員の方たちを見ていると、安心して相談できる気がしました。

お忙しい中を、お時間をいただきまして、有難うございました。

(取材)
大木千冬、岡田美奈子、林川玲子、山本英子

- 東京都医療機関案内サービス“ひまわり” URL:<http://www.himawari.metro.tokyo.jp/>
- 電話:日本語(24時間) 03-5272-0303
- 電話:外国語(9:00~20:00) 03-5285-8181

第12回 日本語学習者による日本語発表会

町田国際交流センター主催、まちだ地域国際交流協会(MIFA)、町田日本語の会協力



町田国際交流センターの7部会の一つ「日本語教室部会」の活動の一つに日本語発表会があります。数年前から「まちだ地域国際交流協会」、「町田日本語の会」も参加して各3名の学習者が発表しています。本年の2月24日(日)にも町田市民フォーラムの3階ホールで実施され、計18人が発表しました。司会は学習者の5人が担当しています。MIFAで学習している中国人の発表の概要をご紹介します。

日本語が上達する4つのキーワード (字数の関係で概要)

呂 梁 (中国/上海出身)

皆様、こんにちは。私は呂梁と申します。

私は子供の頃から自然が好きでなりました。それで、綺麗な地球を守るために自分も力になろうと考え、大学で環境工学を専攻し、環境汚染の防止、水処理、大気浄化などに関する勉強や研究をしていました。そういった勉強するに従い、日本の先進的な環境保護技術やクリーンエネルギー資源の扱い方など特に廃棄物のリサイクル利用に関する技術が凄く進んでいることを知りました。より先進な技術を学ぶために、私は日本留学を決めました。それは日本語が上手になるための第一のキーワード、「興味」です。

次は日本に来てからの話。来たばかりの時、何も聞き取れず、喋れず、国で努力した勉強は全部台無しだったと思いました。日本語学校でしっかり基礎の文法を習うと同時に、バイトも探し始めました。最初は日本語が下手で、なかなか採用してくれる店がなく、かなり落ち込みました。先生が面接対策を教えてください、模擬面接を設けてくれたりすることで、ようやく12軒目のお店で雇われました。バイト先の日本人達は皆大体私と同じ年なので、親切に仕

事を教えたりしてくれたほか、面白い若者の日本語も教えてくれました。笑いながら、教科書以外の格好いい日本語の勉強を通じて、日本語凄く進歩してきました。学校で勉強した内容を使いこなしながら、新たなものを自然に覚えらるので一番いいと思います。第二のキーワードは「活用」です。

半年後、東京工業大学の吉川研究室に入り、廃棄物の燃料化に関する研究をやらせていただきました。自分が憧れた分野なので、「興味」が勿論、ここまで身につけた会話力も「活用」でき、かなり役に立ちました。新しい問題が浮かんできました:まとめた実験データを文章にしなければなりません! レポートの書き方はまた会話と全く違い、綺麗な文章を書けるように、まず日本人の書き方を真似てみようとして先生からのアドバイスをいただきました。最初はただ他人の論文に自分のデータを取り替えるだけで文章を作りましたが、時間がたつにつれて段々自分の書き方も一緒に含んで論文を書けるようになりました。三番目のキーワードは「パクリ」いわゆる「模倣」です。しかし、ただの他人のものを模倣するのみで



はなく、ちゃんと自分の考えを持って自分らしい書き方を開発しましょう。

私はそろそろ大学院から卒業します。一年前就職活動で頑張っていました。問題は面接です。外国人なので、敬語など使わなくてもいいという考え方を持っていましたが、周りの留学生の方は皆敬語を使いこなしている姿に感心しました。忙しい中で毎日テレビを見ていました。特にニュースは最新の情報や現在の動向を丁寧な日本語で伝えていきますので、上品な日本語の使い方を身につけたい外国人にとって一番適な先生であることは言うまでもありません。練習したりして尊敬語や謙虚語の使い方も少しずつ学んできました。第四のキーワード「向上心」さえ抱いていれば、きっとより優秀な自分になれるでしょう。

■在日ミャンマー人の日本語学習を支援する活動をしてきました。

ビルマ同好会「ミンガラ日本語教室」(千代田区)

世話人代表 中尾正明

私どものミンガラ日本語教室は今から17年前、1996年6月、多くの在日ビルマ人の間で“ウ・ミンガラ”と親しまれている西田敦先生により、最初は数名のミャンマー人との間でビルマ語・日本語を教えあう形で始めました。

その後、ビルマ語を学習する教室は別途独立し、日本語学習の教室はビルマ同好会「ミンガラ日本語教室」として、在日ミャンマー人の日本語学習を支援する活動をしてきました。活動は毎日曜日、千代田区の区民館を借りて、「ひらがな・カタカナ」のクラスから初級、中級、上級までの6クラスでクラス授業を行なっています。支援者は熟練の日本語教師から経験の浅いボランティアまで様々な人材から構成さ



サヤガドーボエ(謝恩会)

れています。

教室の活動は日本語学習が中心ですが、健康相談、生活相談も折に触れて行い、また毎年のバス旅行やサヤガドーボエ(謝恩会)・忘年会も大切な行事となっています。

このような活動で、日本語を学習しようと教室を訪れたミャンマー人は創立以来、2,000名を超え、援助する側のボランティア教師も延べ60名を超えるに至っていま

す。その中で、毎年行われる日本語能力試験にも数多くの学習者が挑戦し、N5、N4、N3のみならずN2、N1の合格者も出て、共に学ぶ仲間の刺激となっています。

教室のミャンマー人学習者の日本在留資格は様々のようですが、彼らが日本で生活するためには日本語の習得が重要であることを、彼ら自身も感じている今日この頃です。今後とも少しでも彼らの力になれるよう活動していきたいと考えています。

会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■私たちの会は、来年設立20周年を迎えます。

江戸川にほんご交流会 A.C (江戸川区)

代表 由川 純子

江戸川区が開いた外国人支援のための日本語ボランティア養成講座を修了した人たちが集まって立ち上げた会が始まりです。その後、昼間にも勉強したいという声を受け、火曜日と金曜日の午前中にクラスを設けました。現在ではボランティア24人学習者40人前後で活動しています。

学習者は来日間もない方、日本で働く家族に同行された方、日本人と結婚された方、来日して数年たち改めて日本語を勉強したい方とさまざまです。ニーズもレベルもさまざまですがなるべく希望に沿うよう努力しています。

日本語の勉強ももちろんですが、学習者が楽しみにしているのは折々の行事です。

3月には区内めぐりのバスハイクを計画し、江戸風鈴づくりや足湯を体験しました。他にもスイカ割、各国料理教室、浴衣着付けなどを計画します。中でも毎年、学習者もボランティアも楽しみにしているのは年末の持ち寄りパーティです。それぞれのお国料理と日本料理の競演で学習者とボランティア、みんなの手料理が並んだパーティは圧巻です。

最初、不安そうにやってきた学習者が少しずつ明るく元気になり、日本の社会に馴染んでいくのを見守り、時にはうれいことに資格を取って働き始めま

したと報告に来てくれることもあります。こうして学習者から力をもらいつつ、日本語だけでなく日本の社会へのよき入り口となるように心がけていきたいと思っています。



3月15日 江戸川区 燈明寺

学習者の声

私が住む国、日本

阿部デシリャー／フィリピン
東久留米にほんごクラス（東久留米市）

日本語ボランティアの現場から



私は日本に初めて来たとき、日本語が全く話せませんでした。日本語を読むことも、書くこともできないのに、日本で何をしましょう？「日いつる国」で、

私を待っているのは何でしょう？と自分にたずねました。主人と主人の家族以外は誰も知りません。

でも、私の日本の家族は、いつも私を助けてくれました。私は、東久留米市に日本語クラスのボランティアの方々がいると聞きました。そこで私は、日本語の勉強を始めました。先生たちは親切で、とても辛抱強く日本語を教えてくださいました。私は少しずつ、日本語が話せるようになりました。そして、日本の生活にも慣れました。

私はテレビで、日本の国技、相撲を見るのが大好きです。体の大きい力士たちは、力と技にすぐれています。横綱が一番強く一番優しいです。

また、私は日本の祭りを見るのも好きです。子

供と大人が、はっぴや浴衣を着て踊るのが、とても優美だと思います。

私はお店に買い物に行くとき、よく自転車を使います。重い荷物がある時は、自転車に乗らないと不便です。日本では、自転車が交通手段の一つです。日本人が、スーツやワンピースを着いても、スカートやハイヒールをはいていても自転車に乗るので、おどろきましたが、自転車はとても便利な乗り物だと思います。

日本の町には、たくさん交番があります。交番のけいさつかんは、いつも、道に迷った人や、困っている人を助けます。時々、パトロールもして、市民の安全を守ります。フィリピンにも交番があればいいと思います。

私は子供の頃からキリスト教徒です。日本で私が通う教会には、フィリピン人や、ナイジェリア人の友人がたくさんいます。皆は、まるで一つの大家族のようです。

日本には、信仰の自由と言論の自由があります。だから私は、神様にとても感謝しています。



ボランティアの声

三輪真規子

東久留米にほんごクラス（東久留米市）

「ご縁」を大切にしたい

東久留米にほんごクラスは、発足16年を迎えます。毎月第一、第二、第三火曜日の夜7時から、東久留米市庁舎の市民プラザホールで、ボランティアと学習者が一対一で日本語を勉強しています。

学習者の皆さんがにほんごクラスへ通う動機は様々ですが、学習していくうちに、ボランティアや学習者同士が打ち解けて、交流が深まっていくことは、とても喜ばしいことです。私たちのクラスは、日本語の学習だけではなく、日本文化や日本の四季の行事の紹介、くらしに役立つ日本語の習得など、限られた時間の中で、盛りだくさんのことをしています。

防災訓練では、防災用語をやさしい日本語で勉強しました。災害に出会ってしまったとき、用語の理解は必須です。日本語の習得レベルに関係なく、皆さん熱心に取り組みました。そして救助法やAEDの使用方法も、用語を勉強してから、実際に体験してみました。自国でAEDを操作したことのある方もいましたが、日本語版AEDは新鮮だったようです。

学習者の皆さんは、日本語の音声ガイドを聞きながら、真剣に取り組んでいました。三角巾の巻き方、結び方も、やさしい日本語で説明を聞き、実施練習をしました。ボランティアも三角巾にこんな使い方があったのかと、とても勉強になりました。

先日は、日本茶の種類を紹介しました。皆さんで、煎茶、玄米茶、ほうじ茶などを飲み比べて、お茶菓子と一緒に楽しみました。

「袖振り合うも多生の縁」といいます。にほんごクラスでの学習者の皆さんと私たちボランティアは、この「ご縁」をこれからも大切にしていきたいと思います。私は、日本語を学んでいる方たちに、日本をもっともっと知っていただき、興味を持っていただき、そして好きになっていただきたいと切に願っています。



◎総会から

◆2013年度役員

代表 梶村 勝利(早稲田奉仕園日本語ボランティアの会)
副代表 床呂 英一(まちだ地域国際交流協会)
事務局長 林川 玲子(ビバ日本語教室)
会計 矢崎 理恵(社会福祉法人さぼうと21)
林川 玲子(ビバ日本語教室)
会計監査 嶋田 信子(グッドナイト日本語教室)

◆2013年度活動計画

定常作業:①事務局での事務 かる日本語」研究会を継続
処理と相談対応、②役員会・ 開催、⑥TVACの“ゆめ応援
運営委員会の開催、③ニュー ファンド”助成で「日本語ボ
スレーターの発行(4回)、④日 ランティア活動の現状調査・報
本語ボランティア講習会(出 告」と「ボランティア日本語教
前講習)等、⑤Project:「わ 室ガイド2014東京」発行

◆総会に参加された団体

やさしい日本語(江東区)、話しましょ
う日本語を(練馬区)、初歩日本語
(練馬区)、こんにちにはほんごサー
クル(練馬区)、光が丘やさしい日本
語(練馬区)、ビバ日本語教室(港
区)、早稲田奉仕園日本語ボラン
ティアの会(新宿区)、木曜日の日本
語教室(葛飾区)、NPO法人IWC
国際市民の会(品川区)、社会福祉
法人さぼうと21(品川区)、まちだ地
域国際交流協会(町田市)、府中国
際交流サロン(府中市)、ミンガラ日
本語教室(千代田区)、東久留米に
ほんごクラス(東久留米市)、東京
YWCA武蔵野“いちごの部屋”(武
蔵野市)、小平日本語ボランティア
の会(小平市)、にほんごの会くれよん
(目黒区)、アスク(賛助会員)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネット
ワークはボランティア日本語学習支援活動
を行っている団体のネットワークです。
TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語
学習支援活動を通し、言葉のため日常生
活に不自由を感じている外国人などを、隣
人として支援しています。TNVN は会員へ
の情報提供・会員相互の情報交換、お
よび外部との情報受発信を行い、活動の
活性化を図ります。

◎「国際化市民フォーラム」に参加して——感想

「国際化市民フォーラム」が
2013年2月23日・東京ウイメンズ
プラザで開催されました。参加し
たTNVN「わかる日本語」研究会
メンバーの感想を紹介します。
●庵先生の基調講演は大変簡
潔で、総論から具体的取り組みま
で、それこそ誰にでも分かるよう
にお話頂き、大変良く分かりました。

●基本姿勢は「知らない人にどう
伝えるか」「相手の立場に立って、
どう伝えたらいいかを考える」とい
うこと。
●募集や求人広告の場合、“内
容の削ぎ落とし”と“情報伝達の
正確さ”との間でどうしたらよいか、
戸惑いました。時間がありません
ら、その辺りも学習してみたかった

です。
●行政職員の方から「わかる日本
語／やさしい日本語」の活用の
報告があったが、中でも練馬区が
国際交流・多文化共生基本方針
に、職員の「やさしい日本語」の活
用、さらに町会、自治会への啓発
をうたっている点は、画期的だど
思った。

◎会員団体から届きました。

◆八王子にほんごの会『20年のあゆみ』『八王子にほんごの会 NEWS』 毎号いただいています。
◆まちだ地域国際交流協会『MIFAニュース』 毎号いただいています。

column

「走る」ということ

恐竜が火山の噴火の中をばたばた走り、「ラ
ンナーズハイかな」と言うテレビコマーシャル
を見て、とても楽しくなった。生き物はみな走
ることが好きだ。たとえば、競馬を走るサラブ
レット達は、走ることが大好きな生き物の代表
だ。以前、アイルランドで乗馬をしたことがあ
る。アイルランドは名馬をたくさん産出する国
で、馬をただの乗り物とは考えない。厩舎の前
で、まず馬と人は自己紹介をする。「サンディ
さん、どうぞよろしく」と挨拶をし、エサをさ
しだし、ブラシをかける。一日、草原や砂浜を
走り回った後、水をかけ、もう一度ブラシをか
ける。「ありがとう」と言ってから人はようや
く自分の砂を落とす。

北極圏で橇をひく犬達も走ることが大好き
だ。こちらでも、よろしくの挨拶は欠かせない。
しかし、べたべたと触ってはいけぬ。かれ

らはペットではないのだから。靴下をはかせ
「へぼマッシャーですけどよろしく」と言って
走り出す。林を抜け凍りついた川の上に出る
と、いっきに視野が広がる。氷の上に積もった
雪を踏みしめ、わいわいと騒ぎながら猛スピー
ドで走る。カーブでもスピードを落とすことは
ない。へぼマッシャーの私は、宙を飛んで雪の
中に行こう。解放感いっぱいのはらは止まる
ことなく、空の橇をひいて走って行った。
馬も犬もみんな走ることで
ハイになる。

山本



東京日本語ボランティア・ ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～6時
第5 金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・
大江戸線—出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動について
のご相談・ご質問にベテランスタッフがお
応えしています。メール・電話でご確認
の上、気軽にお越し下さい。また、メ
ールでのお問い合わせにもお応えしてい
ます。ご意見もお待ちしております。

T162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数(2013年4月26日現在)

正会員：78団体、団体協力会員：2団体
個人協力会員：15名、賛助会員：4団体

●編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、
梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

●レイアウト／鶴田 環恵